

●国宝のあるまち妻沼

かつて東武妻沼線というローカル線があり、先の戦中に整備されました。戦後、熊谷と妻沼を結び営業を続けていましたが、昭和58年モータリゼーションの進展により赤字路線となり廃止されました。妻沼は、熊谷駅からバスで北に30分程のところであり、平成17年の熊谷市との合併以前は、妻沼町と呼ばれていました。

今年7月、妻沼の中心にある妻沼聖天の聖天堂が、国宝に指定されました。国宝指定は、埼玉県建造物では最初であり、まちはこれを機に観光PRに力を入れています。

聖天様の脇に、聖天様縁結び通りという商店街道路があり、ここで春と秋の年2回、手づくり市が開催されます。この秋は125の出店がありました。各出店者の市は道路沿いの建物の敷地を活かし開かれるため、道路占有がなく警察協議はありません。出店者と建物所有者との交渉で場所が決定します。出店者は手づくりが条件です。このため、世界にひとつしかない作品が持ち寄られ、昔懐かしい風情がある商店街に並べられます。

手づくり市委員会事務局スタッフには、若い世代が多く、活気に満ちあふれています。一方、妻沼聖天は日本三大聖天の一つとして知られ、とくに縁結びの霊験あらたかです。このため、業界の独身プランナーを中心とした人材支援が望まれます。

高尾 利文（第二計画部）

●待てない人たち

先日、出勤途中に自宅の近所でこんな光景を見た。

幹線道路からトラックが左折して細街路へ入ろうとしていた。しかし、駅が近いこともあり、横断歩行者の列が途切れないため、トラックは横断歩道の手前でしばらく停止していた。その後、横断歩行者の列が途切れたのを確かめてトラックが動き出そうとしたところ（数十センチ動いたかもしれない）、その横断歩道の1メートル程手前から走ってトラックの前を通過しようとした横断歩行者が現れた。仕方なくトラックは再度停止。これを見た後続の2~3人の歩行者もこの横断歩行者に続けとばかりに横断を開始した。結局、この数人の後は横断歩行者が現れなかったため、トラックは無事に細街路へ入っていった。

しかし、何故先に動こうとしていた（または動いていた？）トラックに対して、我先にと手前を横切るのだろうか。ここで事故が起きた場合、責任を問われるのは一般的にトラックの運転者であろうが、怪我等の直接的な被害は横断歩行者も上げることになる。トラックが横断歩道を通過するのに要する時間は1~2秒である。何故この時間が待てないのか。他人が自分の前を横切ると損をすると思うのだろうか。「自分一人くらいは」の気持ちなのだろうか。理解に苦しむ。

こうした些細なことを無くしていだけで交通事故は減ると思うのだが。

野澤 雅一（第一計画室）

◇今年10月、弊社ウェブサイトをリニューアルいたしました。

弊社の幅広い業務分野を概観から詳細まで一覧できるようレイアウトから一新いたしました。ご覧いただき、ご意見等お寄せいただければ幸いです。

<http://www.almec.co.jp/>

(URLは変更ありません)

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>